

「自分が選んだ道を正解にする力」を身に付ける

みなさんが学校教育の後、社会に出たときに、どんな姿であればいいのでしょうか？もちろんやりたいことや働き方は人それぞれであり、決まった正解などありません。これからの社会は「正解のない社会」とも言われています。ただ、大人になって、毎朝、家から出かけるときに、暗い顔をして出かけるのか、明るい顔をして出かけるのか・・・さて、その差はどんなところから生まれるのでしょうか。

それは、「今日は何をやらされるのかな」と受け身に捉えているのか、「今日は何をしてやろうかな」と目的意識をもち、主体的に取り組んでいるのかの違いだと思います。

だから本校での学校生活は、チャレンジする体験、できるだけ能動的に学校生活をする、できれば係活動等でゼロから1を生み出すことを行ってほしいと思います。そして、みなさんのそういう行動は、必ずまわりから肯定的な反応を得る機会になります。実は、自ら行動したことと、それに対する肯定的なまわりの反応はセットでなければ、力を付けることはできないのです。これを成功体験と言ひ、この積み重ねが「自分が選んだ道を正解にする力」を身に付けることにつながっていきます。この話は、「高2の保護者会（7/9）」でも話しました（下枠）。私は、保護者の方々との出会いがあるたびに、学校が大きく進化できるという期待をもつことができます。これは、学力であり、人間性であり、生徒の成長への相乗効果を生み出していきます。

保護者の皆様、本日は足を運んでくださってありがとうございます。せっくなのでちょっとだけ・・・これからの社会でも、お子様のこれからでも、何が正解かわからないという時代です。私にも二人の娘がいますが、進路についての相談はほとんど受けていませんでした。それがいいのか悪いのか（笑）ただ、私は娘を見て、明るく生きているかということだけを気にしています。明るく生きているということは、「自分で選んだ道を正解にする力」を身につけていると思うからです。明るい顔と暗い顔、この差はどんなところにあるのか。それは、やらされているか、やっているかの差だと思います。お子さんが目的意識をもって、やってやるぞという気持ちで行動していれば、必ず「自分で選んだ道を正解にする力」が身についていくと思います。これが一番大切なことだと思います。それでは、有意義な会になるよう、よろしくお願いします。

人は急激な変化にはうまく対応できないときがあります。だから、社会に出ていきなりではなく、今から少しでも能動的に学校生活をし、まわりから良い反応を得るといふ成功体験を繰り返していくことが大切です。そしてそれは、受験だけでなく、その後の未来を生きる力になります。

わかりやすい例を示すと、君たちの「あいさつ」「掃除」「係活動」において、そこでの君たちの言動に対して、先生たちは素晴らしいと感じ、肯定的な反応を示すことがあります。これが、授業でも部活動でも同様にあり得ることであり、それが成功体験の積み重ねにつながることです。

だから私は、みなさんに対して今すぐにも“変化”を求めたいと思います。受け身ではなく、能動的な人になる変化です。「やったら、できる！」という姿勢をもつことです。

下に「授業での取り組み方」を示します。私はいろんな学校に行きましたが、どの学校でも生徒が主体的になれば、いじめなどの事案もなくなっていきます。そしてどの学校でも、一日の大半を占める授業等の取り組み方が、すべてをいい方向に変えていくことが証明されていました。そういう主体性が、みなさんの「自分が選んだ道を正解にする力」をつくっていきます。 (学校長 重枝 一郎)

ミッションALの目標（一コマ一コマの授業の積み重ね）

【序盤】①ゴールをつかむ マインドセット

②学習の流れをつかむ 50分後になりたい自分

【途中】③思考を停止・放棄しない 聴く・考える・説明する・対話する

【終盤】④チャレンジする 家庭学習につなげる（50分後になりたい自分になっていない場合）